

科目名	パソコン演習Ⅰ				方法	演習
担当教員		陸川 晃浩		実務授業の有無	無	
対象学科		ウィンタースポーツ学科	対象学年	1学年	開講時期	通年
必修・選択		必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態		対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方		パソコンの基本的な使い方、キーボードによる文字入力をマスターする。				
学習目標 (到達目標)		Wordによる文書作成が出来るようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウイネット Word2019クイックマスター サーティファイ Word文章処理技能認定試験 3 級問題集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	PCの基本的な操作			PCの基本操作(フォルダ管理、文書の保存等)		
2	Wordの基本的な操作			Wordの説明、基本操作		
3	文字の入力と編集の基本操作			キーボードによる文字入力と編集の操作		
4	文書の編集			文書編集の基本操作		
5	練習問題			問題集より出題		
6	文書の作成			文字入力、文書の作成、編集		
7	模擬問題 1			問題集より出題		
8	模擬問題 1			問題集より出題		
9	模擬問題 2			問題集より出題		
10	模擬問題 3			問題集より出題		
11	模擬問題 4			問題集より出題		
12	模擬問題 5			問題集より出題		
13	模擬問題 6			問題集より出題		
14	模擬問題 7			問題集より出題		
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価 4 段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴						

科目名	パソコン演習Ⅱ				方法	演習
担当教員		陸川 晃浩		実務授業の有無	無	
対象学科		ウィンタースポーツ学科	対象学年	2学年	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数	－	時間数	14時間
授業形態		対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方		Microsoft Excel2010を利用し、表計算能力を身につける。				
学習目標 (到達目標)		サーティファイ「Excel表計算処理技能認定試験3級」の合格を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		ウィネット Excel2019クイックマスター サーティファイ Excel表計算処理技能認定試験3級問題集				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	Excelの基本操作、データの編集			クイックマスター、Chapter1, 2		
2	Excelの表の編集、ブックの印刷			クイックマスター、Chapter3, 4		
3	グラフと図形の作成、ブックの利用と管理			クイックマスター、Chapter5, 6		
4	関数、データベース機能			クイックマスター、Chapter7, 8		
5	練習問題1, 2			各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
6	練習問題3, 4			各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
7	練習問題5, 6			各自、練習問題実施、最低1問は完成をめざす		
8	検定試験					
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				授業内容は進捗に応じ変更となることもあります。		
実務経験教員の経歴						

科目名	ホームルームⅠ			方法	講義
担当教員		小野沢一麻		実務授業の有無	無
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	1. インターンシップ、就職活動に向けたビジネススキルの獲得 2. 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標 （到達目標）	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	スタディサプリの使い方／インターンシップについて			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
2	ディクテーション／インターンシップ、企業訪問準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
3	ディクテーション／インターンシップ、企業訪問準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
4	シャドーイング／インターンシップ、企業訪問準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
5	シャドーイング／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
6	シャドーイング／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
7	シャドーイング／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
8	リード＆ルックアップ／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
9	リード＆ルックアップ／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
10	リード＆ルックアップ／就職活動について			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
11	リード＆ルックアップ／成果発表準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
12	瞬間発話プラクティス／成果発表準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
13	瞬間発話プラクティス／成果発表準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
14	瞬間発話プラクティス／成果発表準備			スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				3月のインターンシップ実習に向けて前期期間中に実習先の決定、覚書等を行う。卒業単位112時間。	
実務経験教員の経歴					

科目名	ホームルームⅡ			方法	講義
担当教員		小野沢一麻	実務授業の有無	無	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 卒業論文作成、研究 2. 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標（到達目標）	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
2	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
3	ディクテーション／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
4	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
5	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
6	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
7	シャドーイング／卒業論文		スタディサプリENGLISH		
8	卒業論文				
9	卒業論文				
10	卒業論文				
11	卒業論文				
12	卒業論文				
13	卒業論文				
14	卒業論文				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価４段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			夏休み期間中を用いてインターンシップ実習を展開していく		
実務経験教員の経歴					

科目名	スノーボード専門理論Ⅰ			方法	講義
担当教員	稲川光伸、大友秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード競技上の基本用語やルールなどの知識学習。マテリアルの構造の学習。スノーボードにおける体の使い方や外力の学習。				
学習目標 （到達目標）	スノーボード競技における知識習得と理解。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スノーボードとは スノーボードとは、バランスのスポーツ（外力とのバランス）		担当：稲川		
2	ターンのメカニズム 角付け、荷重、ローテーション		担当：稲川		
3	ターンのコントロールを知る ターンの形成、スタンス&ポジション、リーン&リーンアウト、ス		担当：稲川		
4	用語説明 スノーボードの用語を覚える		担当：稲川		
5	ズレとキレの違い スライドターンとカービングターンの違い		担当：稲川		
6	マテリアルの構造		マテリアルの解体		
7	マテリアルの構造		マテリアルの解体		
8	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
9	ボードの動きの原理と原則		道具持参		
10	ボード上での体の動き				
11	スノーボードのトリック用語について				
12	重力をはじめとする物理の話				
13	重力をはじめとする物理の話				
14	パークアイテムの名称や構造について				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴		妙高山スノーボードスクール運営、オールアルビレックス コーチ1年			

科目名	スノーボード専門理論Ⅱ			方法	実技
担当教員	滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スノーボードが上達する上で必須となる知識を理解する				
学習目標 （到達目標）	スノーボードが上達する上で必須となる知識を理解する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スノーボード中におけるライン取りの意味と原理				
2	様々なジャンプ・ターン方法とターンの重要性				
3	キッカーのアプローチとハーフパイプのドロップインの原理と方法 と理想像				
4	空中放物線の仕組みと理想的な放物線を描いて飛ぶには				
5	キッカーの180とハーフパイプのエアターンの原理と方法				
6	キッカーの180とハーフパイプのエアターンの原理と方法				
7	キッカーの360とハーフパイプの360の原理と方法				
8	キッカーの360とハーフパイプの360の原理と方法				
9	キッカーの540とハーフパイプの540の原理と方法				
10	キッカーの540とハーフパイプの540の原理と方法				
11	練習時のスピンの組み立て方と練習構成の方法				
12	フリップ系トリックの原理と方法				
13	トリックのコツ（感覚）理論のつなげ方				
14	レールアイテムの原理とトリックの組み立て方				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長3年、SSコーチ7年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	スノーボード技術研究Ⅰ			方法	演習
担当教員	稲川光伸		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	14時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボードに関する様々なクリエイションワークを模擬制作し、SNSに対応した映像編集の基本など、スノーボードビジネスや業界、ライダー活動への関心を高める				
学習目標 (到達目標)	スノーボードに関する様々なクリエイションワークを模擬制作し、ビジネスや業界への関心を高める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリントなど				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	スノーボードデザイン (ラフデザイン:ブランド作成、モデル名、ラインナップ、デザイン作成(デッキ、ソール))				
2	スノーボードイベント スノーボード大会・イベント企画①(企画書作成、スケジュール、内容)				
3	スノーボードイベント 予算、協賛、レイアウトなど				
4	映像作成編集 イメージ映像の作成、編集アプリの使い方				
5	映像作成編集 イメージ映像の作成、編集、エフェクトなど				
6	映像作成編集 イメージ映像の作成、編集、音楽など				
7	⑦テスト実施				
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
作品完成度・関心・意欲・態度・技能において評価を行う。 (出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					
			妙高山スノーボードスクール経営		

科目名	スノーボード技術研究Ⅱ				方法	演習
担当教員	滝沢 光			実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	前期	
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	14時間	
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施					
授業概要、目的、授業の進め方	HOW TOの作成					
学習目標 （到達目標）	知識の活用と技術の探求心向上。					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	内容の構想			カテゴリー・素材の選定		
2	内容の構想			カテゴリー・素材の選定		
3	解説の構想			全体解説・部分解説の作成		
4	解説の構想			全体解説・部分解説の作成		
5	解説の構想			全体解説・部分解説の作成		
6	レイアウト			ページレイアウト・仕上げ		
7	レイアウト			ページレイアウト・仕上げ		
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）						
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長3年、SSコーチ7年、オールアルビレックスコーチ5年					

科目名	トレーニングⅠ			方法	実技
担当教員		小野沢一麻、滝沢光		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	84時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	基礎体力・持久力、基礎筋力の向上				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。 BIG3、基礎トレーニング方法の習得。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎体力トレーニング			持久力向上	
2	基礎体力トレーニング			持久力向上	
3	基礎体力トレーニング			持久力向上	
4	基礎体力トレーニング			MIDラン	
5	基礎体力トレーニング			MIDラン	
6	ウェイトトレーニング			BIG3	
7	ウェイトトレーニング			BIG3	
8	ウェイトトレーニング			BIG3	
9	ウェイトトレーニング			補助エクササイズ	
10	ウェイトトレーニング			パワーエクササイズ	
11	コーディネーショントレーニング			基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方	
12	コーディネーショントレーニング			基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方	
13	コーディネーショントレーニング			基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方	
14	コーディネーショントレーニング			基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
出席率・授業態度				怪我の防止・熱中症への対策。	
実務経験教員の経歴		スノーボード日本代表選手専属トレーナー4年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー2013～現在ノ新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長3年、SSコーチ7年、オールアルビレックスコーチ5年			

科目名	トレーニングⅡ			方法	実技
担当教員	小野沢一麻、滝沢光		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	70時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	可動域、コーディネーション能力向上を中心に行い、専門的動作に繋げる運動力の向上と自身の動作分析を行い、自身の運動パターンの理解と改善点を見つける目を養う。後期には専門的技術トレーニングが始まり、後期の主となるトレーニング授業となる為、後期は感覚へのトレーニングを中心に行う。				
学習目標 (到達目標)	専門的動作に繋げる運動力の向上				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎体力トレーニング		持久力向上		
2	基礎体力トレーニング		持久力向上		
3	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
4	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
5	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
6	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
7	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
8	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
9	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
10	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
11	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
12	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
13	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
14	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー4年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー2013～現在／新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長3年、SSコーチ7年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	スケートボードⅠ			方法	実技
担当教員		大友秀樹	実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	42時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スケートボードに親しみ、安全な乗り方・転び方を覚える				
学習目標 （到達目標）	スケートボードに親しみ、安全な乗り方・転び方を覚える				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	板の乗り降り・プッシュ・カービング		2時間		
2	プッシュ・カービング・バンク上り下り・パンピング		4時間		
3	チクタク・キックターン・パンピング		6時間		
4	ニースライド・トゥフエイキー・トゥフオワード・パンピング		4時間		
5	パンピング・キックターン		4時間		
6	プッシュ・カービング		2時間		
7	オーリー・フラットトリック		6時間		
8	前期の復習		2時間		
9	トランジション パンピング・キックターン・ニースライド		2時間		
10	トランジション パンピング・キックターン・ニースライド		2時間		
11	トランジション ドロップイン		2時間		
12	トランジション ドロップイン		2時間		
13	カービング		2時間		
14	カービング		2時間		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴		オールアルビレックス コーチ1年			

科目名	スケートボードⅡ			方法	実技
担当教員		大友秀樹	実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードとスノーボードの共通性と非共通性を理解し、スノーボードに活かす技術を身につける				
学習目標 （到達目標）	スケートボードとスノーボードの共通性と非共通性を理解し、スノーボードに活かす技術を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	前年度の復習と身体の慣らし・ブッシュ・ターンドロップ フラット・バンク				
2	バンク・パンピング・オーリー・フラットトリック				
3	R系パンピング・ターン				
4	カービングトリック　カービング				
5	カービング　ヒップでのターン・カービングトリック				
6	ヒップでのターン・カービングトリック総合滑走・ロールアウト				
7	ドロップイン・エアー				
8	前年度の復習と身体の慣らし・ブッシュ・ターン				
9	カービング・ヒップターン・カービングトリック・ロールアウト・ その他の応用		バタフライボウル		
10	カービング・ヒップターン・カービングトリック・ロールアウト・ その他の応用		バタフライボウル		
11	滑走スピードアップ		バタフライボウル		
12	横・縦回転		ドリームジャンプ		
13	横・縦回転		ドリームジャンプ		
14	自分で組んだルーティーンとトリックを発表		発表会		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価 4段階評価　100点満点で評価 A（秀　80点以上） B（優　70点以上） C（良　60点以上） D（不可　60点未満）					
実務経験教員の経歴		オールアルビレックス　コーチ1年			

科目名	トランポリンⅠ			方法	実技
担当教員		滝沢 光		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	28時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	器械体操の基礎技術の習得。				
学習目標 (到達目標)	器械体操の基礎技術を体得し、競技に反映させる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	トランポリンの組み立て			トランポリンの組み立て・撤収・安全確認	
2	トランポリン適用期			ストレートジャンプ・タック・開脚飛び	
3	トランポリン適用期			ストレートジャンプ・タック・開脚飛び	
4	トランポリン基礎			シート・背落ち・腹落ち	
5	トランポリン基礎			シート・背落ち・腹落ち	
6	トランポリン基礎			シート・背落ち・腹落ち	
7	テスト				
8	トランポリン応用			連続背落ち・ガメラ・スイーブル・コンボ	
9	トランポリン応用			連続背落ち・ガメラ・スイーブル・コンボ	
10	跳び箱			開脚飛び・閉脚飛び・台上前転・台上側転	
11	マット運動			前転・後転・側転・飛び込み前転	
12	トランポリン応用			連続背落ち・ガメラ・スイーブル・コンボ	
13	トランポリン応用			連続背落ち・ガメラ・スイーブル・コンボ	
14	テスト			トランポリン・マット運動・跳び箱	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価４段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				怪我の発生リスクを下げる為に、安全確認・自己技術範囲管理の徹底。	
実務経験教員の経歴		新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年			

②

全日本ウィンタースポーツ専門学校

科目名	トランポリンⅡ				方法	実技
担当教員	滝沢 光			実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年	
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間	
授業形態	対面授業の実施					
授業概要、目的、 授業の進め方	器械体操の基礎技術の確認・応用技術の習得。					
学習目標 （到達目標）	スノーボード競技へ技術の反映。					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	トランポリン基礎			トランポリン基礎動作の確認		
2	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
3	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
4	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
5	マット運動			マット運動の基礎的な動作確認と応用技術の習得		
6	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
7	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
8	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
9	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
10	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
11	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
12	マット運動			マット運動の基礎的な動作確認と応用技術の習得		
13	マット運動			マット運動の基礎的な動作確認と応用技術の習得		
14	トランポリン応用			トランポリン上での前後左右の回転技術習得		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				怪我の発生リスクを下げる為に、安全確認・自己技術範囲管理の徹底。		
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年					

全日本ウィンタースポーツ専門学校

科目名	専門トレーニングⅠ			方法	実技
担当教員		滝沢光		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	70時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	基礎体力の向上、スノーボード理論と身体の動かし方を意識したトレーニングを展開。 スノーボードの動きと理論を理解し、身体本来の動作と現状を比較する事で 自身に必要な改善点、成長点を確認する。				
学習目標 (到達目標)	基礎体力、持久力の向上、トレーニング基礎理論の復習内容を組み込み理解を深め スノーボード技術向上に繋げる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎トレーニング・球技			全身運動トレーニング、加重、抜重の重要性	
2	基礎トレーニング・球技			全身運動、スノーボードにおける加重、抜重トレーニング	
3	基礎トレーニング・球技			全身運動、スノーボードにおける加重、抜重トレーニング	
4	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
5	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
6	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
7	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
8	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
9	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
10	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
11	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
12	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
13	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
14	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

全日本ウィンタースポーツ専門学校

科目名	専門トレーニングⅡ			方法	実技
担当教員		滝沢光		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	70時間
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	基礎体力の向上、スノーボード理論と身体の動かし方を意識したトレーニングを展開。 スノーボードの動きと理論を理解し、身体本来の動作と現状を比較する事で 自身に必要な改善点、成長点を確認する。				
学習目標 (到達目標)	基礎体力、持久力の向上、トレーニング基礎理論の復習内容を組み込み理解を深め スノーボード技術向上に繋げる				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	基礎トレーニング・球技			全身運動トレーニング、加重、抜重の重要性	
2	基礎トレーニング・球技			全身運動、スノーボードにおける加重、抜重トレーニング	
3	基礎トレーニング・球技			全身運動、スノーボードにおける加重、抜重トレーニング	
4	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
5	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
6	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
7	基礎トレーニング・球技			スノーボードの運動性における理論と運動理解、トレーニング	
8	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
9	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
10	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
11	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
12	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
13	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
14	実習			カムイ御坂・長野ブラッシュ・小布施クエスト・各地のスケートパーク等	
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴		新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年			

科目名	チューンナップⅠ			方法	実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	14時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	チューンナップの知識と技術の習得				
学習目標 (到達目標)	実技力の向上。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	配布資料				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	マテリアル		用具知識の理解		
2	エッジ加工		サイドウオールカット・エッジの角度調整		
3	ワックスing		ホットワックスのかけ方・スクレーピング		
4	ブラッシング		ブラッシングの方法・仕上げ		
5	実技復習		一連の作業工程の復習		
6	実技復習		一連の作業工程の復習		
7	実技復習		一連の作業工程の復習		
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）			怪我の防止確認。		
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	チューンナップⅡ			方法	演習
担当教員		棟田 達典	実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2年	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	4時間
授業形態	対面授業のみ実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	自身のマテリアルを調整する能力を身につけ、競技力向上と専門知識の向上を目指す。				
学習目標 （到達目標）	高度なチューンナップ技術を身につけ、滑走技術に合わせたマテリアルの調整ができる。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	リペア、サンディング				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）				怪我の防止確認。	
実務経験教員の経歴		チューンナップ店経営			

科目名	SS研究			方法	実技
担当教員	大友秀樹		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	28時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スキー場でのアイテム製作を通し、実際の現場と道具の扱い方を知る				
学習目標 （到達目標）	スキー場でのアイテム製作を通し、実際の現場と道具の扱い方を知る				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	工具（電動ドリル、電動のこぎり）				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
2	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
3	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
4	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
5	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
6	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
7	ジブアイテム作成・補修等の実習（赤倉）				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80％以上） ■成績評価４段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴		オールアルビレックス コーチ1年			

全日本ウィンタースポーツ専門学校

科目名	コンディショニングⅠ			方法	講義
担当教員	小野沢一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	人体の特徴、基礎栄養、障害予防方法、応急処置を学び、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。スポーツのケガを減らし、安全なスポーツ環境を作るために、スポーツ医学の知識（身体やケガの知識）を習得し①ケガの予防、②ケガからの競技復帰、③競技力の向上、に活かす。 パフォーマンスアップに必要な身体の特徴理解を深める。				
学習目標 （到達目標）	スポーツ医学検定資格取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スポーツ医学検定公式テキスト2・3級、基礎から学ぶスポーツトレーニング理論				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）①		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
2	解剖学・バイオメカニクス（人体の特徴と名称）②		実技あり、教科書、映像を用いた動作チェック		
3	基礎栄養①		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
4	基礎栄養②		5大栄養素、吸収、分解の仕組み、水分補給、エネルギー		
5	怪我の予防		怪我を防ぐために		
6	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
7	怪我からの競技復帰		復帰を早める為に必要な事（栄養、処置、リハビリ）		
8	トレーニング種類と組み合わせ		各部位のトレーニング方法、セット法		
9	トレーニング種類と組み合わせ方/ピリオダイゼーション		各部位のトレーニング方法、セット法、スケジュールの組み方とピークパフォーマンスの作り方		
10	頭位を位置する胸郭のスポーツにおける重要性について		実技あり、自身の滑走動画比較		
11	頸椎と呼吸法の関係性による柔構造と剛構造の違い		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
12	パフォーマンスを決める手と体幹の位置関係と発揮方法		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
13	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム①		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
14	骨盤のパフォーマンス向上におけるメカニズム②		実技あり、チェック方法、トレーニング方法の習得		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。		
実務経験教員の経歴		スノーボード日本代表選手専属トレーナー4年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー2013～現在			

科目名	コンディショニングⅡ			方法	講義
担当教員		小野沢一麻		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	28時間
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スキー、スノーボードにおける外傷・障害について理解し、障害予防としてケア、コンディショニングの方法を身近な道具を使用し、身体の状態を維持、向上する方法を理解する。前期はアライメントチェックを行い、自身に必要なケア、トレーニング、傾向を理解し、各関節におけるパフォーマンス向上に必要な基礎知識理解を目的とし、後期は障害に対してのセルフケアの方法理解を目的とする。				
学習目標 (到達目標)	自分の体を知り、コンディショニング方法として、道具を使用したセルフケアの方法と、体に対しての基礎知識の習得。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・入門運動生理学(第3版) ・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	アライメントチェック（静的、動的アライメント、柔軟性）			姿勢評価を行う（半袖、半ズボン）カメラ、メジャー、FMSキッド ※フィットネスルーム	
2	アライメント分析、評価、メニューの作成			姿勢評価、説明終了後、メニュー作成	
3	アライメント分析、評価、メニューの作成			メニュー作成	
4	股関節の重要性について（実技）			股関節の基礎動作・知識を理解したのち、股関節の動作による運動への影響を実技の中で体験する	
5	胸郭の重要性について（実技）			股関節の基礎動作・知識を理解したのち、股関節の動作による運動への影響を実技の中で体験する	
6	膝関節の動作と足首の関係性			膝、足関節の基礎動作・知識を理解したのち、関節動作による運動への影響を実技の中で体験する	
7	脊柱動作が運動に及ぼす影響について			脊柱の基礎動作・知識を理解したのち、関節動作による運動への影響を実技の中で体験する	
8	前期テスト			前期評価テスト	
9	背部痛に対しての知識とケアの方法			筋筋膜性背部痛理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する	
10	背部痛に対しての知識とケアの方法			筋筋膜性背部痛理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する	
11	腰痛に対しての知識とケアの方法			筋筋膜性腰部痛やヘルニア、分離症の理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する	
12	腰痛に対しての知識とケアの方法			筋筋膜性腰部痛やヘルニア、分離症の理解とケアについて学び、セルフケアの方法を理解する	
13	膝痛に対しての知識とケアの方法			膝蓋周囲炎、鵞足炎、ジャンパー膝、半月板損傷など膝の障害理解と対処法、ケアの方法を理解する	
14	後期テスト			後期テスト	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
考査60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）				専門用語、ケアの正しい方法の理解、ポイントなど学習内容が非常に多く準備学習が重要となる。	
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー4年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー2013～現在				

全日本ウィンタースポーツ専門学校

科目名	雪上実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	456時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッテアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、黒姫スノーパーク、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	春の雪上トレーニング①		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
2	春の雪上トレーニング②		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
3	春の雪上トレーニング③		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
4	雪上トレーニング④		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
5	雪上トレーニング⑤		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
6	雪上トレーニング⑥		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
7	雪上トレーニング⑦		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
8	雪上トレーニング⑧		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
9	雪上トレーニング⑨		赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策		
10	雪上トレーニング⑩		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
11	雪上トレーニング⑪		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
12	雪上トレーニング⑫		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
13	雪上トレーニング⑬		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
14	雪上トレーニング⑭		大会への調整、資格対策・検定		
15	雪上トレーニング⑮		大会への調整、資格対策・検定		
16	雪上トレーニング⑯		全日本選手権への調整、資格・検定		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	雪上実習Ⅱ			方法	実習
担当教員		滝沢 光		実務授業の有無	有
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	456時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺の赤倉観光リゾートスキー場、ロッテアライリゾートを中心に練習を行い、11月下旬から長野県の軽井沢プリンスホテルスキー場、焼額山スキー場を中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、黒姫スノーパーク、赤倉観光リゾートスキー場を中心に対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	春の雪上トレーニング①			LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。	
2	春の雪上トレーニング②			LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。	
3	春の雪上トレーニング③			LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。	
4	雪上トレーニング④			軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック	
5	雪上トレーニング⑤			軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック	
6	雪上トレーニング⑥			焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック	
7	雪上トレーニング⑦			焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック	
8	雪上トレーニング⑧			焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック	
9	雪上トレーニング⑨			赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策	
10	雪上トレーニング⑩			赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策	
11	雪上トレーニング⑪			赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策	
12	雪上トレーニング⑫			黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策	
13	雪上トレーニング⑬			黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策	
14	雪上トレーニング⑭			大会への調整、資格対策・検定	
15	雪上トレーニング⑮			大会への調整、資格対策・検定	
16	雪上トレーニング⑯			全日本選手権への調整、資格・検定	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	インターンシップⅠ			方法	実習
担当教員		小野沢一麻		実務授業の有無	無
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	全学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	32時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	3月の春休み期間にインターンシップを行う。進路実現に向けて冬の仕事を経験する。事前に目的、背景を明確化し、インターンシップ先の決定を行う。前期期間より準備を行い、日程の調整を含め行う。様々な企業へ研修に行くことで、業界だけでなく、仕事のながれ、現在必要なスキル、改善点など多くの経験を積むことが出来る 卒業までに112時間のインターンシップ時間数が必要となる				
学習目標 (到達目標)	実践力を身につけ、業界への理解を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インターンシップ実習			事前準備として参加動機書、学生調書の作成を行う。	
2	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
3	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
4	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップⅡ			方法	実習
担当教員	小野沢一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	全学年	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	80時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	7月～9月の夏休み期間を利用しインターンシップを行う。1年次に冬、2年次に夏を経験し1年間を通した仕事の経験を積み今後に活かす。卒業までに112時間のインターンシップ時間数が必要となる				
学習目標 (到達目標)	実践力を身につけ、業界への理解を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		事前準備として参加動機書、学生調書の作成を行う。		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
9	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
10	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅰ			方法	演習
担当教員	小野沢一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	48時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	ウィンタースポーツに関わる企業への訪問研修 ワックスの仕組み、マテリアル理解・業界理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	ウィンタースポーツ業界の理解を深める				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ワックス工場訪問研修		企業研究、質問について事前に準備を行う。 訪問終了後お礼状の作成を行う。		
2	ワックス工場訪問研修		企業研究、質問について事前に準備を行う。 訪問終了後お礼状の作成を行う。		
3	メーカー企業研修		板メーカー		
4	アクティブスポーツ関連企業①		ICFSUV		
5	アクティブスポーツ関連企業②		SUP、ウェイクボード		
6	バックカントリー／山と気象		バックカントリーの仕事について、リスクマネジメント		
7	interstyle2021／JSEへの参加・研究		企業研究、質問について事前に準備を行う。		
8	AIRMIX・試乗会		interstyle2021／JSE研究資料を基にマテリアルの確認、更なる理 解を深める		
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅱ			方法	演習
担当教員	小野沢一麻		実務授業の有無	無	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	42時間
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	ウィンタースポーツに関わる企業への訪問研修 板の仕組み、業界理解を深める				
学習目標 （到達目標）	ウィンタースポーツ業界の理解を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ビジネス研修①		企業研究、質問について事前に準備を行う。 訪問終了後お礼状の作成を行う。		
2	ビジネス研修②		メーカー		
3	ビジネス研修③		メーカー		
4	アクティブスポーツ関連企業①		ICFSUV		
5	アクティブスポーツ関連企業②		SUP、ウェイクボード		
6	バックカントリー		バックカントリーガイド、基礎講習		
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。 ■成績評価 4 段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	日本語コミュニケーション				方法	講義
担当教員	小野沢 一麻			実務授業の有無	無	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	1年	開講時期	特別	
必修・選択	必修	単位数	一	時間数	12時間	
授業形態	対面授業の実施					
授業概要、目的、 授業の進め方	コミュニケーション基礎を学び、インターンシップ、就職活動に必要な知識・技術の獲得を行い コミュニケーション検定初級取得に向けて勉強を行う。 聞く、話すことの重要性理解、ビジネス分野において必要な言葉遣い、作法を含めた理論編 電話応対やビジネスマナーなどの実践編の2部構成にて授業を進めていく。					
学習目標 (到達目標)	コミュニケーション基礎能力の構築 コミュニケーション検定初級合格100%					
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	コミュニケーション検定 初級対策テキスト コミュニケーション技法					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションを考える、聞く力、話す力、来客応対			コミュニケーション検定初級対策テキストP2～P43		
2	電話応対、アポイントメント、接客クレーム対応、模擬テスト①			コミュニケーション検定初級対策テキストP44～83		
3	模擬テスト②					
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上） B（優 70点以上） C（良 60点以上） D（不可 60点未満）				テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴						

科目名	社会人常識マナー			方法	講義
担当教員	福山 泰子		実務授業の有無	有	
対象学科	ウィンタースポーツ学科	対象学年	2学年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	－	時間数	12時間
授業形態	対面授業と遠隔授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概 要 社会人としてのビジネスマナー習得 目 的 社会人常識マナー検定3級合格。 進め方 テキストと過去問題を使用。				
学習目標 (到達目標)	社会人常識マナー検定3級取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	全国経理教育協会 社会人常識マナー検定3級、過去問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	検定対策1		テキスト、過去問のポイント解説		
2	検定対策2		テキスト、過去問のポイント解説		
3	検定対策3		テキスト、過去問のポイント解説		
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考查60％（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40％（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）			テキストの内容を把握していること。		
実務経験教員の経歴	18年販売促進コーディネーターの実績、10年リテールマーケティング検定対策(3級2級) 講師としての実績あり。				